

# 当体義抄送状

文永一〇年

五二歳

問ふ、当体蓮華<sup>げ</sup>解し難し。故に譬喩<sup>ひゆ</sup>を仮りて之を顕はすとは、經文に証拠有るか。  
答ふ、經に云はく「世間の法に染まざること、蓮華の水に在るが如し、地より涌出す」云云。地涌<sup>じゆ</sup>の菩薩<sup>ぼさつ</sup>の当体蓮華なり。譬喩は知んぬべし。以上後日に之を改め書すべし。此の法門は妙經<sup>しよせん</sup>所詮の理にして釈迦如来の御本懷<sup>ほんがい</sup>、地涌の大士に付嘱せる末法に弘通せん經の肝心なり。国主信心あらんの後始めて之を申すべき秘藏の法門なり。日蓮より最蓮房<sup>さいれんぼう</sup>に伝へ畢<sup>おわ</sup>んぬ。

日 蓮 花 押